

災害ボランティアをするには？

災害ボランティアセンター

災害時、被災地の地区町村で社会福祉協議会（社協）が中心となり運営する、ボランティアをしたい人としてほしい人を繋ぐ機関。被害状況によりボランティアの募集がある場合とない場合があったり、募集する地域を限定していたりするので、HP等で詳細を確認すること。



ボランティアバス

各自治体やNPO等団体を通じて、「ボランティアバス」が運行され、ツアー形式で活動に参加できることがある。移動費が抑えられる他、活動のタイムスケジュールや準備物を案内してもらえることが多い等のメリットがある。初めて災害ボランティアをする人や移動手段が確保できない人にオススメの参加方法。（募集情報はインターネットで検索するか、ヒューマン・サービス支援室までご相談ください。）

➤➤➤ 全国社会福祉協議会 HP ➤➤➤



活動参加の注意点

POINT 自身の安全確保を最優先に

現地の状況により、二次災害（余震や土砂災害、津波や川の氾濫等）が起こる可能性がある。被災地に負担をかけないためにも、心身ともに万全な状態で参加できるかを慎重に判断し、自身の安全確保を最優先に考えよう。

活動参加前に必ず「ボランティア保険」に加入しておこう。ボランティア保険は近隣の社会福祉協議会で加入することができる。※災害時には特例でインターネットで加入できる場合もある。最新情報を確認しよう。（参考）兵庫県ボランティア・市民活動災害共済 ⇒ ⇒ ⇒



POINT 自己完結、自己責任(準備を万端に！)

移動手段や宿泊先は自身で確保しよう。公共交通機関が止まっている場合や、道路が寸断されている場合もあるので注意。また、活動に必要な費用や準備物等も自身で準備をして持参しよう。現地では電気や水道が止まっていたり、飲食物が不足している可能性がある。まずはしっかり情報収集をして、十分に準備を整えよう。

作業用	必需品	その他、あると良いもの
長靴(踏み抜き防止用インソール or 安全長靴)	飲料(水、スポーツドリンク)	タオル
長袖シャツ(破れにくいもの)	食料	ウエットティッシュ
長ズボン(破れにくいもの)	着替え	ティッシュペーパー
防塵マスク	雨具(レインコート)	ビニール袋
ゴム手袋、ビニール手袋(厚手のもの)	現金	保冷バッグ、保冷剤
帽子、ヘルメット	携帯電話	防寒/熱中症対策(カイロや塩飴など)
ヘッドライト	充電器	虫よけスプレー
ゴーグル	健康保険証	日焼け止め
名札、ビブス(ワッペンなど、ガムテープで代用も◎)	ボランティア保険加入証明書	ブルーシート
小分け用デイバッグ(作業場所等で持ち替えるもの)	常備薬、酔い止め等	ラジオ(できれば電池式のもの)
	応急セット(絆創膏や傷薬など)	ホイッスル
	生理用品	懐中電灯
	消毒液(消毒スプレー)	貴重品入れ(ウエストポーチなど)
	リュックサック等大荷物用鞆	被災地周辺の地図
	寝袋などの寝具(宿泊時)	活動時以外に履く靴
	洗面道具(宿泊時)	メモ用紙、筆記用具

準備物の例

活動時の心構え

POINT 自ら考えて主体的に行動しよう！

- ・あいさつは、元気な声で率先して！
- ・指示待ちするのではなく、自ら考えて行動！
- ・一緒に活動する人たちや現地の方と積極的にコミュニケーションをとろう！
- ・ちょっとしたことであっても、報告・連絡・相談（ほうれんそう）を大切に！
- ・気になったことや印象的だったことはメモをとろう！（※休憩時や作業前後）



POINT 無理をしない

- ・安全な場所で適宜休憩をとり、絶対に無理はしないようにしよう。
- ・自分だけでなく、被災者の方や一緒に活動する人たちの様子も見て、適宜休むことを提案しよう。
- ・危険な箇所での作業を頼まれたときや、自分ではできないことを頼まれてしまったときは、一歩立ち止まって考え、できないと思ったらそのことをちゃんと伝えよう。



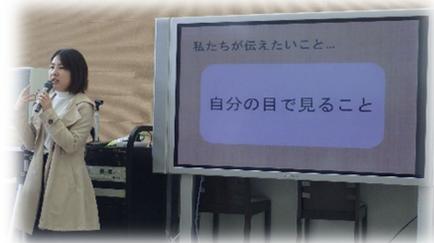
POINT 被災地、被災者に寄り添う

- ・家族を亡くしたり、家を失ったりしている方もいるので、心情に配慮し、思いやりのある言動を心がけよう。
- ・何かを「してあげる」のではなく、被災者の方の思いを聴いて活動しよう。
- ・自分の考えを押しつけたり、相手の望まないことまでしないように気を付けよう。
- ・写真が撮影したい場合、被災者や関係者に理由を説明して、必ず許可をとろう。

活動参加後にできること

POINT 関心を持ち続けて、できることを考えよう

- 「参加して終わり」ではなく、関心を持ち続けてできることを考えよう。
- ・SNSやブログ等で発信
 - ・家族や友人に話す
 - ・大学内で発表（授業やサークル活動など）
 - ・大学外で発表（支援団体が主催するイベント、メディアなど）
 - ・ヒューマン・サービス支援室で職員や学生コーディネーターに話す
 - ・何度も被災地を訪れる
 - ・被災者の方と手紙を交換する など



現地に行かなくてもできること

募金活動をしたり、自分自身が募金・寄付をするという形で被災地を支援することができる。また、寄付には「義援金」と「支援金」の2種類あるので、知っておこう。

募金活動

災害支援をしているNPO法人や各種機関を通じて活動参加者を募る場合がある。但し、中には被災地への募金を名乗った悪質な詐欺の場合もあるので、活動参加前に信憑性を十分に確認しよう（気になる場合は支援室に相談しよう）。
※学生による関西学院大学構内での募金活動は認められていないので、注意。

義援金

ルールに基づき、被災者一人ひとりに「公平・平等」に分配される。日本赤十字社や中央共同募金会等を通じて集められることが多い。

支援金

被災地で活動するNPOやNGOに対して活動資金として提供され、被災者の個々の状況に応じた支援活動に充てられる。

どんなことでもご相談ください！

＼ HP・SNSもチェック！ ／

関西学院大学ボランティア活動支援センター ヒューマン・サービス支援室

☎ 0798-54-6061

✉ kg.hssso.info@kwansei.ac.jp

